# 事　例

［地域における協働体制からコミュニティ・スクールに発展した事例］

# 「ふるさと杉一」を意識し、学校・地域・保護者が一体となった学校支援

東京都杉並区／杉並第一小学校支援地域本部

## ■活動の目的・概要

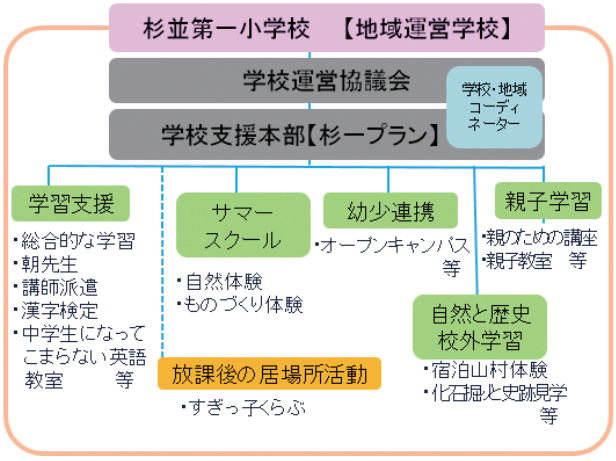
○杉並第一小学校を支援するために設置された、地域の人たちの学校応援団です。

○地域から信頼される「力のある学校」づくりの支援を行っています。

○「わが街阿佐谷、ふるさと杉一」を意識し、学校・地域・保護者が一体となって多様な学校支援活動や放課後支援活動を行う仕組みを構築しています。

○杉一プラン独自の発想と協力体制による教育活動の更なる充実を図っています。

体制図




## ■活動の特徴・工夫

○「朝先生」

平成19年度から始まり、今年度で９年目を迎えます。毎週２日、授業開始前の職員朝会をしている時間に、各クラスに地域の方に入っていただき、百人一首や計算チャレンジの指導をしていただいています。朝学習には、年間延べ1000人以上の地域の方の協力を得ています。活動終了後、朝先生が日誌を作成し、その日の児童の様子を先生と共有できるよう工夫しています。また、朝先生が担任の知らない児童の一面を発見することもあり、先生の多面的な児童理解につながっています。

朝先生と百人一首

○「すぎっ子くらぶ」

自由遊びによる子供たちの成長を基本理念とし、放課後毎日実施しています。児童約200名が登録し、一日平均100名程度の児童が利用しています。卒業生やその保護者、地域の方がスタッフとなり、運営されています。　「すぎっ子くらぶ」に来る日の授業中の様子なども把握できるよう、スタッフと先生とのコミュニケーションを密にとっています。

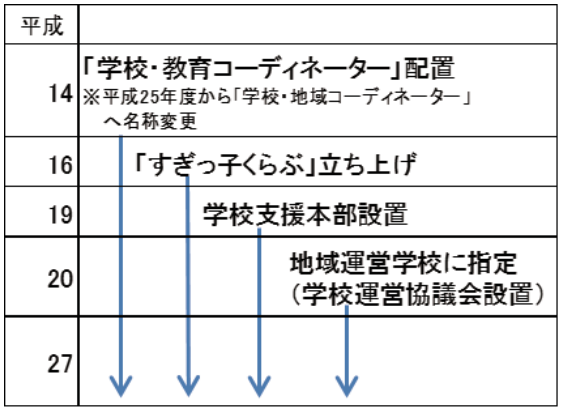
すぎっ子くらぶの様子

○「杉一共育<ともいく>シンポジウム」

保護者・教師・地域が同じテーブルを囲み、夢を語り合う場をもちたいという願いから、学校運営協議会の主催により開催されました。同じ意識のもと地域が一丸となって学校を支える体制づくりを推進しています。

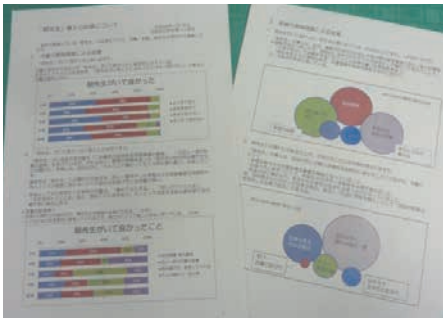
## ■立ち上げ当時

○平成１４年度に、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進するため、「学校教育コーディネーター」が区内に４名配置されました。その後、「学校教育コーディネーター」が、文部科学省が推進していた放課後子どもプランにいち早く取り組み、平成１６年度に「すぎっ子くらぶ」を立ち上げました。また、学校と地域との連携をさらに発展させ、より組織的に学校支援を進めることを目的として、平成１９年度に「学校支援本部」が設置されました。さらに、平成１９年には学校運営協議会が設置されました。本校を担当していた「学校教育コーディネーター」が、設置当時から杉並第一小学校学校支援本部長として活動しています。




## ■展開・現在

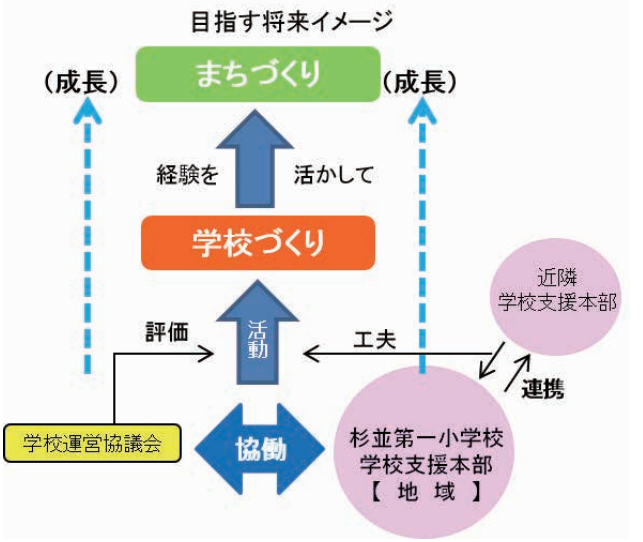
○「朝先生」について、児童と教員にアンケートを実施し、その効果について調査しました。
児童の90%が「朝先生がいてよかった」と回答し、「色々なことを教えてくれる」「いてくれて安心する」といった、「朝先生」を心の支えとしている児童が多くいることがわかりました。
教員からは、「落ち着いた状態で始業できる」「多面的な児童理解ができる」といった意見が挙がりました。
また、「朝先生」の、子供の様子や変化に一喜一憂しながら成長を感じてくださる「地域の応援団」としての姿が見えてきました。


朝先生のアンケート結果

○「すぎっ子くらぶ」は、平成16年度にスタートしてから12年目を迎え、「すぎっ子くらぶ」を卒業した児童の保護者がスタッフとして新たに加わり、より多くの地域の方に支えられながら運営されています。

## ■今後の展望・課題

○地域と学校が連携・協働した学校づくりを進めるとともに、地域が学校支援によって得た経験を活かして、まちづくりを進めていきます。活動を通して、地域、学校双方の成長につなげていきます。
○近隣の学校支援本部と人材、施設等を含めた多角的な視点から連携し個別の活動から「総合化・ネットワーク化」することで、取組の工夫や課題解決につなげていけるよう、情報共有や自主的な研修会の開催等を進めます。
○活動の充実と発展のための検証を行います。将来的には、学校運営協議会の評価を得て、常に課題を意識した取組を実践できるよう心がけていきます。




連絡先：杉並区教育委員会学校支援課　03-5307-0756　ito-akihiro@city.suginami.lg.jp

［コミュニティ・スクールから地域における協働体制に発展した事例］

# 子供も大人も一緒に学ぶ

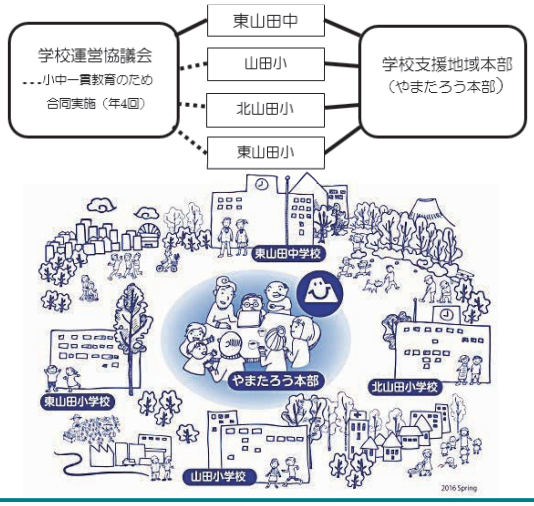
横浜市／市立東山田中学校区学校支援地域本部（やまたろう本部）

## ■活動の目的・概要

○平成17年、東山田中学校は神奈川県初のコミュニティスクールとして開校しました。学校運営協議会では、小中合同で審議・研修を年４回実施、中学校区としてのビジョン共有につとめています。

○平成21年にスタートした学校支援地域本部は中学校区の４校（山田小、北山田小、東山田小、東山田中）の小中一貫教育を応援し、「地域とともにある学校」を推進するために活動しています。

○小学校学習活動、中学校キャリア教育、土曜日等の活動をコーディネートしています。




## ■活動の特徴・工夫

○中学校に地域の縁側のような「場」があります

中学校内に「生涯学習の場」「地域活動の場」「学校と地域をむすぶ場」として、コミュニティハウスが併設され、日常的に「人と情報」がつながるよう工夫しています。

○「情報の共有」からスタート

平成18年度より、学校と地域の情報を掲載したコミュニティカレンダーを作成、情報共有するだけでなく、作成プロセスで中学校区の一体感が生まれ、連携協働が進みます。

○「多彩な参画」をコーディネート

小３のまち探検やキャリア教育では、地域の企業、郷土資料館、福祉施設等とつなぎ、多様な学びの場を創出しています。

○「大人の学び」を大切にしています

「学校支援ボランティア講座」や、地域と学校の合同研修など、学びの場を企画運営しています。

○「継続性」を高めるための工夫をしています

・人が代わると、それまで地域と学校が築いてきた信頼関係もくずれやすいので、「しくみ」として活動を継続できるよう、テキストを作成しました。

・継続性を高めるための財源確保の試みとして「やまたろうファンド」を立ち上げました。

・コミュニティハウスの棚を利用して、手作り品の常設バザーコーナー「やまたろうＢＯＸ」があり、収益の一部がファンドに寄附されます。

赤ちゃんから高齢者までが利用

ボランティアが作成するカレンダーとＨＰ

教職員とコーディネーターの打ち合わせ

## ■立ち上げ当時

○平成１７年春、学校運営協議会のあるコミュニティスクールとして中学校が新設されました。コミュニティハウスは「大人も子供もつどい学ぶ場、地域と学校をむすぶ場」として開館、当初はまず地域や学校とコミュニケーションを丁寧にし、信頼関係を築くことを第一にスタートしました。

○学校ニーズから、初めてのコーディネート
「修了証書に名前を書いてくださるお習字の先生はいませんか？」という副校長の一言から学校支援活動がスタート。その後中学校キャリア教育、小学校特別支援の補助的な支援等、学校ニーズに応じて活動が広がっていきました。

中学校キャリア教育
1年生プロに学ぶ会

小学校学習支援

## ■展開・現在

○土曜日活動の実施
理科とアートをテーマに地域の講師を招き開催。天体観測は夜間に実施することで特に父親の参加が多く、地域活動デビューのきっかけになっています。

土曜クラブ
学校ではできないダイナミックなアートに挑戦

○小中学校と地域ですすめる防災学習
ＰＴＡと協力して、３小学校の親子と中学生ボランティアが参加する「やまたろうＢＯＳＡＩ」を実施。幼稚園保育所等も加わり、地域とともに進める防災学習と連携しています。卒業生である高校生大学生が企画段階から加わり、当日消防団、地域企業も参加し、いざという時力を発揮する地域のネットワークづくりにつながりつつあります。

やまたろうＢＯＳＡＩ
企画段階から、中学生、高校生、大学生が参画します。

## ■今後の展望・課題

○繰り下がりの計算や九九など基礎学力をつけるために、小学３年生までの学習支援「やまたろうクラブ」を始めました。今後は企業の協力を得てＩＣＴを活用したり、中学生も対象にしたいと検討を始めています。

○活動の継続性を保ち、地域との信頼関係を保ち、連携・協働していくために、複数のコーディネーターが常に活動できる体制づくりが必要。ＰＴＡＯＢやボランティア活動をしている人の中から、養成講座に参加する人をふやしていきたいと考えています。

連絡先：やまたろう本部事務局　045-591-7240　higashiyamata-p@tsuzuki-koryu.org

［コミュニティ・スクールと公民館型のネットワークを連携させた事例］

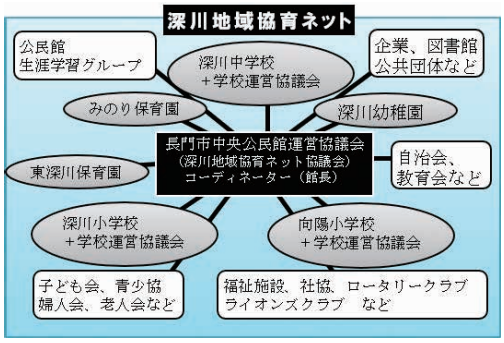
# 地域総がかりで子供たちを育てる地域協育ネット

山口県長門市／深川中学校区深川地域協育ネット

## ■活動の目的・概要

地域の多くの方が「つどい」「まなぶ」公民館には、生涯学習の拠点としてだけではなく、地域づくりの拠点としての役割が求められています。地域総がかりで子供を育てるときには、公民館に集う生涯学習グループや社会教育関係各種団体等は大きな力になります。

そこで、長門市では公民館の既存の組織を協議会として、公民館がコーディネーター役を担うかたちの「地域協育ネット」に取り組んでいます。




## ■活動の特徴・工夫

公民館型の「地域協育ネット」は、地域づくりの活動へとつながっているという意識の下に取り組んでいます。また、各学校の既存の学校支援ネットワークと公民館がもっているネットワークをつなげることにより、小・中学校における教育活動支援について、今まで以上に多様な活動を企画し、効果的な支援を行っています。

○学習支援

外部講師を学校の学習計画の中に位置づけ、子供たちが興味・関心をもち意欲的に学習に取り組めるように、教員は地域の方の参加による授業に積極的に取り組んでいます。授業に参加された地域の方々も、普段やっている学びが生かされたという満足感を感じられており、今後の活動の意欲づけにもつながっています。

音楽科　琴の指導

特別支援学級児童との活動

中学校で絵手紙指導

ラグビー指導

○わくわく土曜塾、わくわく子どもクラブ

公民館では、土曜日の子供の居場所づくりとして「わくわく土曜塾」を行っています。生涯学習グループや高校、各種団体と連携し、いろいろな体験活動を実施することができるのも公民館型の「地域協育ネット」のメリットです。

水辺の教室

水産高校生とかまぼこづくり

しめなわづくり

高校生との芋の苗植え

## ■立ち上げ当時

従来から、小・中学校ともに、学校支援ボランティアや外部講師による学習や地域の方々による見守り隊など、地域の「ひと・もの・こと」とかかわりをもち、「地域総がかりで子供を育てる」という活動が随所で行われていました。そこで、それぞれ独自に進められている既存の学校支援組織や団体をはじめとし、公民館で活動している社会教育関係団体や関係諸団体を網の目のように結び、「地域協育ネット」として進めていくことにしました。

また、各学校もコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域の意見を取り入れ、学校・家庭・地域が目標を共有し、連携・協働して子供たちを育てていこうとする体制を作りました。

## ■展開・現在

○取組の成果

公民館に集う生涯学習グループや各種団体が学校へ出向き、子供たちと活動することが日常的に行われるようになってきました。学校も地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりを年間学習指導計画の中に位置づけ、子供たちが興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組むようにしています。また、校内にコミュニティルームを新設することで、地域の方が学校で活動できるようになってきました。

おやじの会によるホワイトボードの取付作業

○学校と公民館の連携した取組

公民館も積極的に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と関わり、連携した活動を行っています。

深川小学校では、地域・保護者の方々に気軽に学校に足を運んでいただくために、給食レシピによる昼食会を企画しています。

また、学校運営協議会では３つのプロジェクト（安全見守り支援、学習支援、学校環境整備支援）を立ち上げ、具体的な活動についての協議を行っています。そして実働に向けて、ＰＴＡやおやじの会、家庭教育学級との連携を図り、協働による取組を行っています。

公民館まつり準備作業

深川中学校では、生徒自身が地域貢献という立場で公民館まつり・大掃除などの行事に積極的に関わり、地域の方々との交流を深めコミュニケーション能力を育んでいます。

## ■今後の展望・課題

○課　題

「地域総がかりで子供を育てる」という意識は、実践や広報活動等により地域の理解が進み、協力を得られるようになってきましたが、「子供と関わると疲れる」「高齢でなかなか出られない」などの声もあり、今後、更に若者や地域の方を巻き込む方策を考えていきたいと思います。

○今後の取組

公民館に集う生涯学習グループや各種団体が学校へ出向き、子供たちと活動することが日常的となってきました。本地区の「地域協育ネット」は、地域づくりの一環として取り組んでいます。今後も、「地域総がかりで子供を育てる」という意識の下に、既存の活動を中心に実践を積み重ねていこうと思っています。また、子供たちと地域の方のニーズや思いを吸い上げ、新たな活動にも取り組んでいきたいと考えています。そのためにも、各活動をしっかりと評価しながらプランを立て、アクションを起こしていきたいと思っています。さらに、小・中学校で連携を図りながら、子供たちが地域貢献する活動へと発展させていきたいと考えています。

連絡先：長門市中央公民館　0837-23-1181